

テレマンのテレマン

延原武春

指揮

・テレマン室内オーケストラ・

Takeharu Nobuhara & Telemann Chamber Orchestra

創設 60 周年

バロックの悦び、ここに極まる
オール・テレマン・プログラム

3つのトランペットとティンパニのための協奏曲 二長調

Concerto for 3 Trumpets & Timpani in D major, TWV 54:D3/TWV 54:D4

室内協奏曲 ト短調

Concerto di camera in G minor, TWV 43:G3

ヴァイオリン協奏曲 イ短調

Violin Concerto in A minor, TWV 51:a1

チェンバロのためのファンタジー ト長調 / ト短調

Fantasies for Harpsichord in G major, TWV 33:7 / in G minor, TWV 33:8

チェロ・ソナタ 二長調

Sonata for Cello in D major, TWV 41:D6

リコーダー協奏曲 ヘ長調

Recorder Concerto in F major, TWV 51:F1

***** 指揮 *****

延原武春

***** チェンバロ *****

高田泰治

***** 管弦楽 *****

テレマン室内オーケストラ



2023. 3/9(木) 2:00PM開演(1:30PM開場) 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
A¥4,000 B¥3,000 (税込/全席指定) 〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

発売日

11/12
土

芸術文化センターチケットオフィス

☎ 0798-68-0255

10:00AM - 5:00PM
月曜休み ※祝日の場合翌日

※窓口での販売(残席がある場合)は11/13(日)より

インターネット予約

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

主催: 兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※未就学児はご入場いただけません。 ※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。



兵庫県立
芸術文化センター

関西から
文化力

創設60周年に贈る テレマン珠玉の名曲選

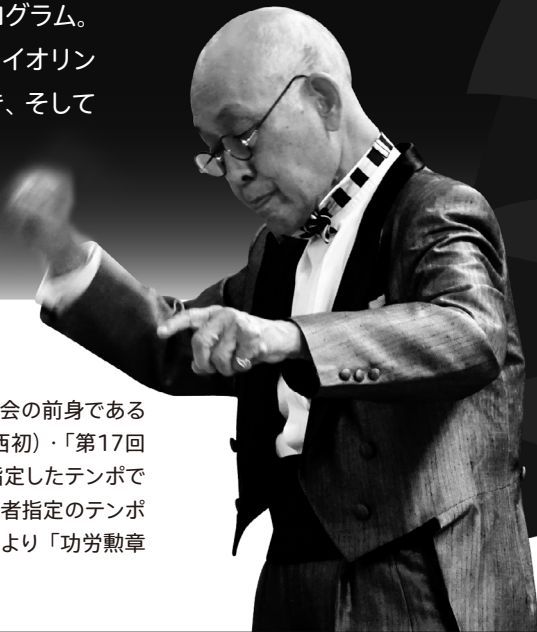
2023年には創設60周年を迎え、関西を拠点に長きにわたり、バロkker古典期の音楽の真髄を紹介し続けている「テレマン室内オーケストラ」。そんな記念の年に皆さんにお贈りするの、やはりテレマン！ドイツ・バロkker期に最大の人気を誇ったゲオルグ・フィリップ・テレマン（1681-1767）は生涯に4000曲以上もの作品を残し、さらにほぼすべての楽器を演奏することができたというほどのマルチ・プレイヤーでもありました。そんな彼が生み出した、多彩な楽器の魅力をお届けするプログラム。

華やかなトランペットのファンファーレに始まり、哀愁漂うヴァイオリンのささやき、清らかなリコーダーの調べ、煌めくチェンバロの瞬き、そして心の通ったアンサンブル。

これまでの確かな歩みをもとに、更に躍進する未来を感じさせる演奏に、どうぞご期待ください！

〈指揮〉延原武春 TAKEHARU NOBUHARA, Conductor

18世紀音楽を専門とする指揮者・オーボエ奏者。1963年に日本テレマン協会の前身であるテレマン・アンサンブルを創設。彼らを率いて「文化庁芸術祭・優秀賞」（関西初）・「第17回サントリー音楽賞」等を受賞。1982年、初演当時の編成とベートーヴェンの指定したテンポで「第九」を演奏（世界初）。2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲を、作曲家指定のテンポとクラシカル楽器を使用して指揮。この公演が引き金となってドイツ連邦共和国より「功労勲章 功労十字小綬章」が贈られた。



〈チェンバロ〉高田泰治 TAIJI TAKATA, Cembalo

2002年神戸新聞松方ホールにてテレマン室内オーケストラとともにピアノ、フォルテピアノ、チェンバロのそれぞれの協奏曲を一夜で演奏するという公演にてデビュー。2010年にはNHK「クラシック倶楽部」にてモーツァルト作曲ピアノ協奏曲第12番をフォルテピアノで好演し話題となる。2011年5月にはバッハ研究の最高機関「バッハ・アルヒーフ」の定期演奏会に招聘される。現在はバロkker・ヴァイオリンのU.ブンディースとデュオを結成しドイツでも演奏活動を展開中。平成23年度坂井時忠音楽賞、平成28年度咲くやこの花賞音楽部門、2018年度音楽クリティッククラブ賞奨励賞、令和2年度神戸市文化奨励賞を受賞。

〈演奏〉テレマン室内オーケストラ Telemann Chamber Orchestra

1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。「第17回サントリー音楽賞」（現在もテレマンと東京交響楽団、京都市交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない）を受賞した日本初のプロオーケストラでもある。そのほかの主な受賞歴は、「大阪文化祭賞」、「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、「文化庁芸術祭優秀賞」（関西初）等。

1990年バロkker・ヴァイオリンのサイモン・スタンデジをミュージック・アドヴァイザーとし、バロkker楽器（18世紀当時の楽器およびそのレプリカ）による演奏を始める。2003年にはドイツのバッハ・アルヒーフから招聘を受け「バッハ・フェスティバル」に出演し、C.P.E.バッハ「チェンバロ協奏曲Wq1」を世界初演した。

2006年からはクラシカル楽器（古典派の時代に使用された楽器およびそのレプリカ）による演奏を始め、2007年には同楽器によるF.J.ハイドンのオラトリオ「四季」を好演。「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞した。

2012年にはドイツよりバロkker・ヴァイオリン奏者ウッラ・ブンディース氏を首席客演コンサートマスターとして迎えた。



《チケットご購入のお客様へお願い》新型コロナウイルス感染予防対策にご協力をお願いします

※芸術文化センターでのご購入時には、来場者情報把握のため、先行予約会員（無料）へのご登録をお願いしております。

なお、お一人様2枚までとさせていただきます。

※入場者数を制限して販売する場合があります。

※37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。

※マスクを着用されない方はご入場いただけません。（マウスシールド不可）

※感染の再拡大等により、公演の中止や、公演内容、座席配置等が変更となる場合がございます。

ご来場前にウェブサイト掲載の〈当センターをご利用のお客様へ〉をご確認いただきますようお願いいたします。→



アクセス

